

EV投資にアクセル

富山、石川のメーカー

富山、石川のメーカーで電気自動車（EV）に対応した設備投資が堅調に進んでいる。田中精密工業（富山市）は8月、工場の設備や在庫などをインターネット上に再現するソフトを導入し、人員、設備の最適化を図る。三光合成（南砺市）は米国の工場の拡張を予定し、福井鋳螺（あわら市）も加賀市に工場を新設した。一方で、EVの販売量は世界的に減速傾向にあり、各社がどこまでアクセルを踏み続けることができるか、不透明感も漂う。



部品増産へ 工場を「見える化」や拡張

減速傾向には不透明感

田中精密工業が導入したのは製造工程や在庫、設備など工場内部をインターネット上に再現できるソフト。国内外の既存の工場を「見える化」することで、製造ラインの見直しや空いたスペースの活用などを検討することができるという。製造効率の向上が狙いだ。

同社は2026年度までの中期経営計画でEV部品などに約100億円の投資を予定し、前期（24年3月期）の決算ではEV部品の量産開始で営業、経常、最終の各利益は過去最高を記録した。

ただ、EV用の部品は自動車部品と比較すると大型で、従来の製造ラインの作業動線や完成部品の運搬作業が最適かどうか社内でも問題視されたという。担当者は、新たな設備導入の際に事前にシミュレーションを活用することで稼働後の不

具合を減らすことができる」とし、「将来的な設備投資にも活用でき、常に市場の変化に対応できるようになった」と述べた。

三協立山（高岡市）はEV向けアルミ材の供給能力増強を目的に、射水市の

新湊東工場を増築する。25

年10月の完成を予定し、投資額は約120億円。27年

5月期まで3カ年の中期経営計画で主要な設備投資と位置付ける。

パワー半導体を手掛ける加賀東芝エレクトロニクス

（能美市）も増産に備え、今年5月に新製造棟を整

備。精密金属部品などを製造する福井鋳螺も7月、加

賀市の北陸自動車道片山津インターチェンジ（IC）

近くに、EVやハイブリッド車（HV）用蓄電池の電

極端子などを生産する片山津工場を新設した。

一方で、EV市場の世界的落ち込みで国内の自動車メーカーも需要に合わせ、縮小の動きもある。トヨタ自動車は26年のEVの世界生産台数を当初の計画より約3割減の100万台程度にするとしている。

トヨタやホンダなどに部品を納入している三光合成の久住アーメン社長は8月29日の社長就任会見で米国の工場拡張について「準備は進めるが、日系のメーカーがギブアップするところでも設備を考え直さないとけなくなる」と不安を口にした。

ソフト導入で設備の見直しが進む工場

富山市の田中精密工業富山工場（同社提供）